

わくわく中国文化



—中国の世界遺産④—

Illustration by KOH_HSL(instagram)

中国の世界遺産④

「西にローマあれば、東に長安あり」というシルクロードの起点として3000年以上の歴史を持つ古都・長安は、現在の陝西省の省都・西安です。

西安は3100年の歴史の中で、都として1100年の歴史を担ってきました。かつて周、秦、漢、隋、唐など13の王朝が都を置き、アテネ、ローマ、カイロと並び称される世界四大文明の古都として中国文明史に重要な役割を果たしています。

歴史文化の集積である西安には、秦の始皇帝の陵墓をはじめ、前漢皇帝の11陵墓、唐代皇帝の18陵墓があります。また、周、秦、漢、唐の四大大都城遺跡や鐘樓、鼓楼、古城壁など古代建築遺跡は700か所を有し、そのうち2件6か所は「世界遺産」に認定されています。

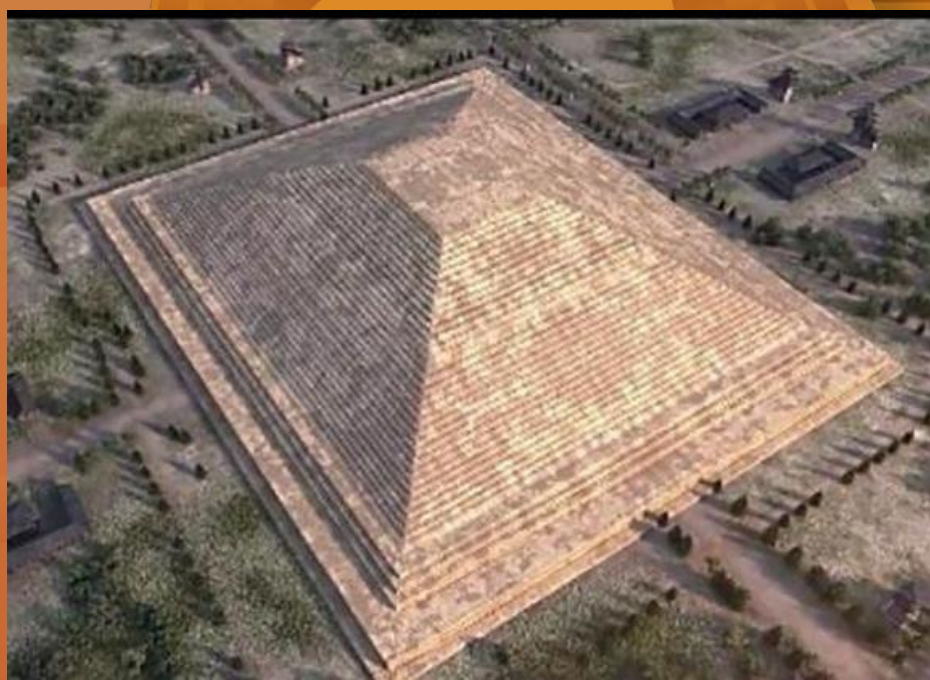
西安にある「世界遺産」は、(1)兵馬俑、(2)大雁塔、(3)小雁塔、(4)唐代長安城大明宮遺跡、(5)漢代長安城未央宮遺跡、(6)興教寺塔の6つです。今回は(1)兵馬俑、(2)大雁塔、(3)小雁塔の3つについて紹介します。

兵馬俑

秦の始皇帝の陵墓は西安市臨潼区に位置し、紀元前246年から紀元前208年までの間に建造された中国の歴史上初の大規模で設計完成度の高い皇帝陵墓です。現存する封土の高さは約51メートルで、外観は「覆斗形*」です。陵墓の周囲は1700メートル余りあります。*覆斗形：覆った枅形の形

1974年に秦の始皇帝の陵墓の東側から1500メートル離れた場所で、3つの「陪葬坑(副葬品などを埋めた竖穴)」が発見されました。陪葬坑の中には、大量の彩色上絵を施した陶製の兵馬俑が埋葬されていました。

1987年に兵馬俑は世界文化遺産に登録されました。現在では「世界第八大奇跡」と称賛され、古代中華文明の象徴となり、世界十大古墳の1つにもなっています。また、兵馬俑は発見されて以来、200人ほどの国家元首と政府首脳が見学しています。



彩色上絵の兵馬俑

覆斗形



兵馬俑坑



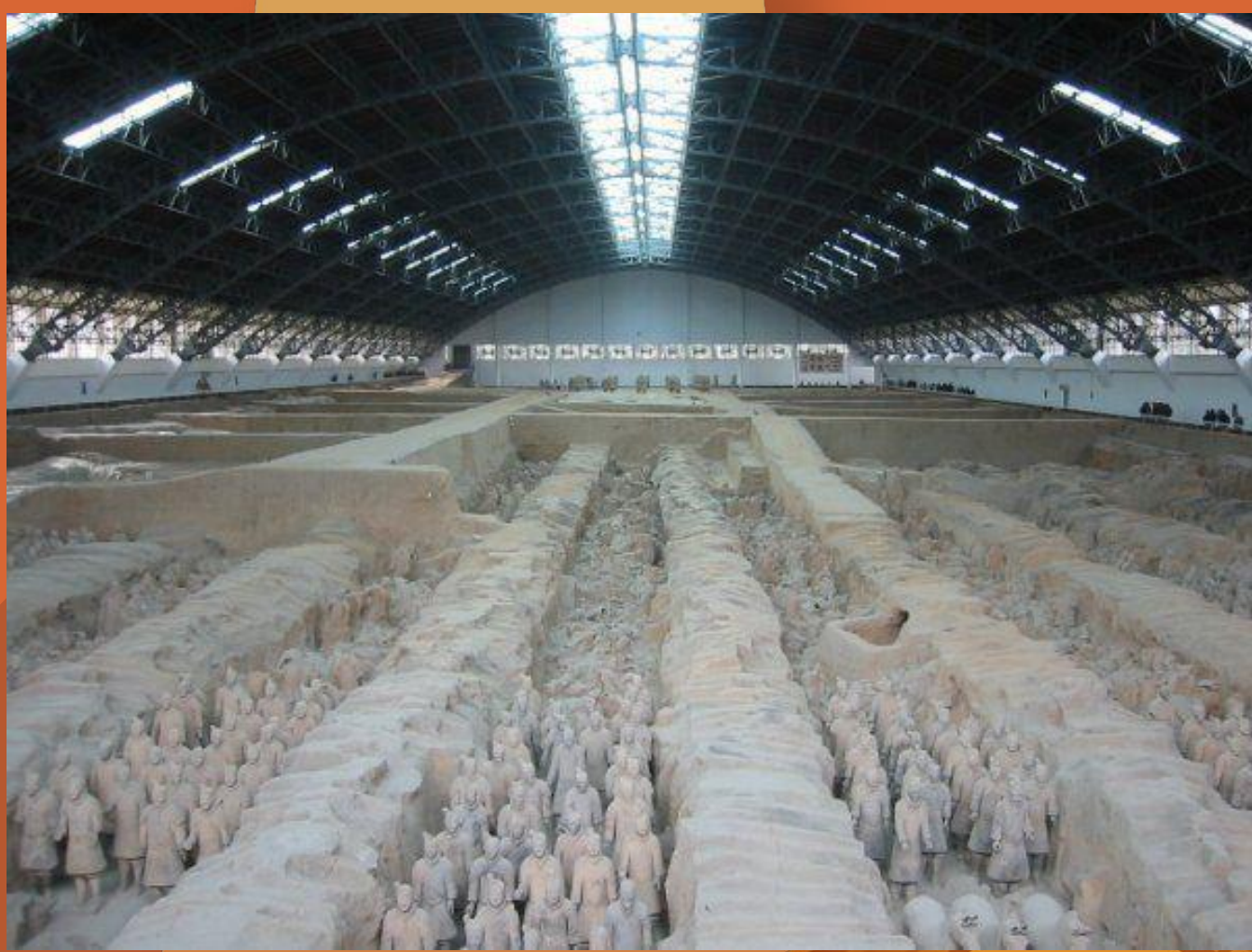
西安

X I A N

中国の世界遺産④

殷商時代は人を生き埋めにする風習が盛んになった時代でした。しかし、戦国時代に入り、各国は相次いで生きた人を埋葬する制度（殉葬制度）の廃止を進め、紀元前381年に秦国は正式に殉葬制度を廃止しました。制度の廃止に伴い、生きた人の代わりとして、陶製の土偶を埋葬し始めました。「史記」によると、秦の丞相・李斯氏が始皇帝の陵墓の設計を担当しており、名将・章邯が工事監督をしており、39年にわたって始皇帝の陵墓を建造している間、兵馬俑も同時に作っていたそうです。

初めて発掘された1号坑は、村民が井戸を設置するために土を掘っていた時に、兵馬俑の破片が発見されました。1年間の発掘で、東西200メートル以上南北60メートル以上に及ぶ全容が明らかになりました。1号坑の中で発見された兵馬俑は6000体に及びました。翌年、2号坑も3号坑も発見され、現在までに約8000体の兵馬俑が確認されています。兵馬俑には1つとして同じ顔をしたものはありません。出土された兵馬俑には車兵俑や、立射俑、跪射俑、武士俑、軍吏俑などがあります。



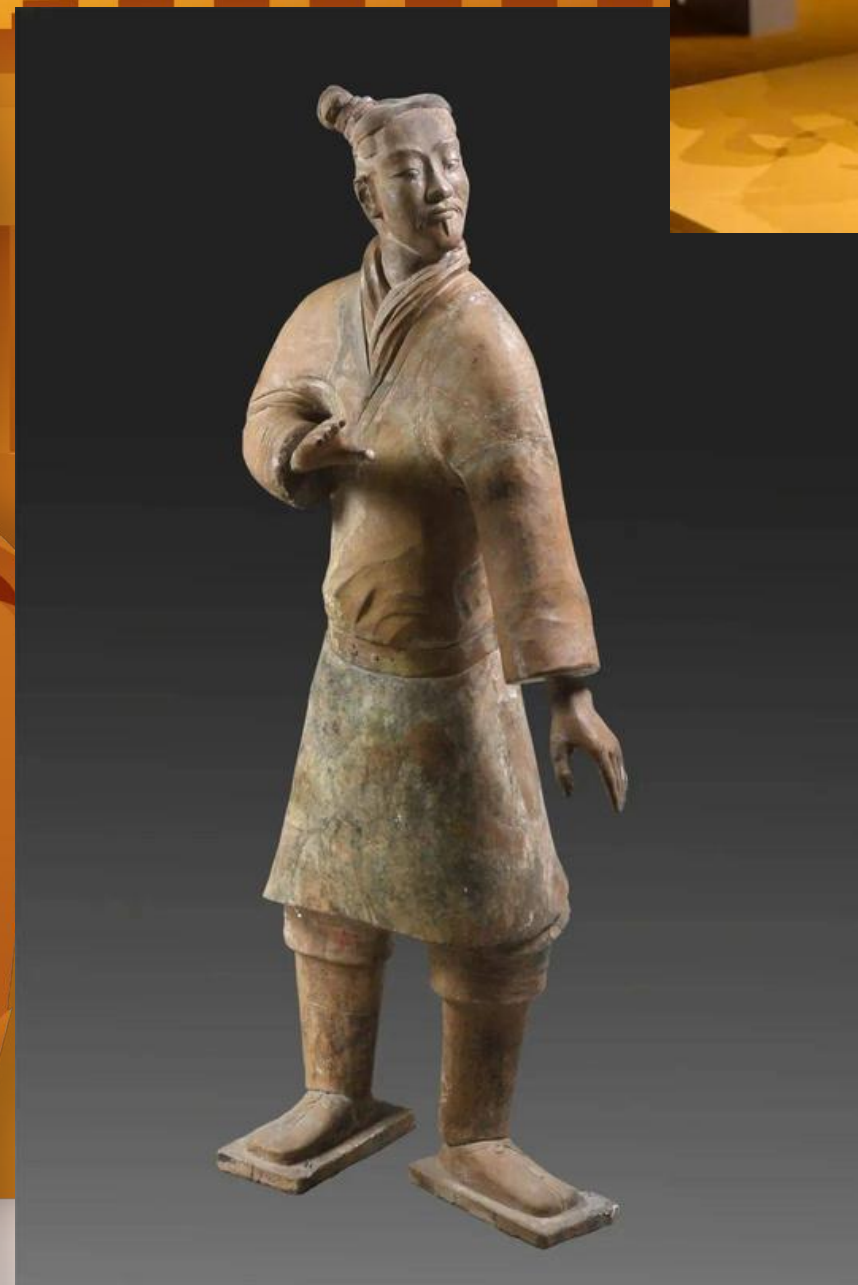
兵馬俑1号坑



車兵俑



跪射俑



立射俑

観光案内：

西安駅の東側で観光バスに乗ったら、直行できます。バス代7元（約140円）です。大雁塔と大唐芙蓉園から307番バスに乗ることができます。バス代8元（約150円）です。

秦の始皇帝の陵墓と兵馬俑の入場料は120元（約2400円）です。

西安

X

I

A

N

中国の世界遺産④

大雁塔

大雁塔は西安市内の大慈恩寺の境内にあり、「慈恩寺塔」とも呼ばれています。唐永徽3年（652年）に玄奘三蔵(三蔵法師)がシルクロードを通してインドから持ち帰った仏像と経典を保存するために建立した塔です。建立当初は5層の塔でしたが、後に9層まで建てられました。時間が経つにつれて階数と高さが数回変更され、現在は7層からなる高さ64.5mの仏塔になっています。大雁塔は現存最古、規模最大の唐代方形のレンガ造りの塔です。

2014年に大雁塔は「シルクロード」の遺跡の一つとして世界文化遺産に登録されました。

雁塔の名前の由来は、昔、インドの寺院の僧侶が遠くから飛んできた雁の群れを見て、「もう食べ物が何もないので、菩薩様は私たちが空腹であることを知っているはずですよ」と独り言を言った途端、一匹の雁が目の前に落ちて死にました。僧侶たちは菩薩様のご利益を示したと思い、雁が落ちた場所に雁を埋葬し、そこに塔を建てました。玄奘三蔵はインドにいた時にこの雁塔を見たことがあり、長安に戻った際に、インドの雁塔の形を真似た塔を建造し、「大雁塔」と名付けました。「大雁塔」の「大」は「大乘仏教」を意味するそうです。

塔内では唐太宗と唐高宗撰の序文で褚遂良によって書かれた「大唐三蔵聖教序」や明の時代の如来像、仏舎利、貝葉経などを見ることができます。

観光案内：

市内バスと地下鉄3、4号線で行けます。

大雁塔入場料：3月～10月末40元（約800円）、11月～2月末30元（約600円）

大雁塔



大雁塔の夜景と玄奘三蔵



西安

X

I

A

N

中国の世界遺産④

小雁塔

小雁塔は唐の時代に、長安城の安仁坊（現在陝西省西安市内南側）にある薦福寺の境内に建立されたことから、「薦福寺塔」とも呼ばれています。唐中宗景龍年間（707年～710年）に建立された時はレンガでできた15層の塔でしたが、明嘉靖34年（1556年）の大地震で、塔のてっぺんの2層が壊れてしまい、13層になりました。現在塔の高さは43.4mで、「大雁塔」と同じ形をしています。唐代の仏教建築芸術遺産で、2014年に「シルクロード」の遺跡の一つとして世界文化遺産に登録されました。

宋、明、清の時代にも何度か修繕され、なかでも、清の時代の康熙31年（1692年）に実施された修繕が最も大規模なものでした。また、清の末期には、経楼と南側の山門が増築されました。

長い歴史の年月の中で、小雁塔は何度も地震に見舞われました。記録によると、地震によって裂けた塔が、その後に発生した別の地震によって元の姿に戻ったという逸話があり、少なくとも「3裂3合」の不思議があったと記載されています。

観光案内：

西安博物院内にあり、市内バスで行けます。
営業時間は9時から16時です（毎週火曜日閉館）

入場料は無料ですが、入場人数は1日3000人に限定されています。



空撮の小雁塔



小雁塔

西安

X

I

A

N